

子育て広場

小松 歩・瀧口 優・佐久間 路子・森山 千賀子・
井原 哲人・仲本 美央・庭野 晃子

活動実績の概要

はじめに

白梅子育て広場がスタートしたのは2005年である。以来16年が経過し、学生中心の子育て支援活動は地域に定着した。広場とそこに参加する市民、親子は例年年間2000人、係わる学生も100人を越えている。昨年度末からはじまったコロナ禍のため、2020年度の前半はオンラインの会議のみを行い、後期に入ってオンラインでの「あそぼうかい&世代間交流広場」を2回開催した。その他についてはコロナ禍のために学内での活動ができないまま推移している。

1. この1年を振り返って

(1) 経過

- ・ 4月25日（土）あそぼうかい&世代間交流子育て広場（中止）
- ・ 7月4日（土）あそぼうかい&世代間交流子育て広場（中止）
- ・ 11月28日（土）あそぼうかい&世代間交流子育て広場（オンライン開催）
- ・ 12月14日（土）子育て広場シンポジウム（中止）
- ・ 1月23日（土）あそぼうかい&世代間交流子育て広場（オンライン開催）

(2) 総括

4月のオリエンテーションの段階から新入生への働きかけができず、しかも広場が開催されないという中で、学生委員会を維持していくのは大変であった。地域子育て支援演習の対面授業の時にLINEのネットワークをつくり、学内のポータルサイトを併用して新入生への連絡を行ってきた。学生の執行部は夜8時から運営会議をオンライン

で開き、教員代表もその会議に参加して調整してきた。

後期になって広場をオンラインで開催することになり、その開催方法を議論した結果、参加希望者宅に材料を予め送って、本番はそれを家庭で作ってもらう、ということで位置付いた。時間的には厳しかったが、学生達はZOOMの機能を生かして、新しい映像を生み出していった。11月は上級生が企画して当日を運営し、感染を避けるために学内の広い部屋をフルに活用した。それを受けて1月は1年生の演習受講者が中心となって更に発展させた。事前のリハーサルが感染対策をしながら何回も行われ、学生達の演技もかなり上達してきた。

2月からは次年度の学生委員会の体制を組織することになっていたが、基本的にオンラインで行い、1年生が多数残って次年度を引き継ぐことになった。コロナ禍のために本来の子育て広場の活動ができなかったことが、逆にもう一年やってみようという思いにつながったようである。

2. まとめ

学生つながりも大変であったが、教員の方も打ち合わせを行うことができず、どういう方向に支援していくのか議論ができずに1年が過ぎてしまった。7つの広場として進めてきた形も、紅茶の会やNPOきららもこの1年活動ができていない。あらためてどういう形で進めていくのか議論する必要がある。そして2025年に迎える創立20周年に何を準備するのか、今から議論しておく必要がある。なお2020年度の担当教員は小松（代表）の他、佐久間、森山、井原、仲本、庭野、そして瀧口である。